



日本キリスト教保育所同盟 (題字 前理事長・木村 量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館 〒762-0056 香川県坂出市中央町8番58号
発行責任者 理事長 新井 純

「神様に抱かれて子どもたちと共に」

つくし保育園 吉田直子

日本キリスト教保育所同盟ミッションステートメント (使命の宣言) 「いのち・人権・平和」

神様から託された子どもたち。そのかけがえのないいのちを守り、尊び、つながり、幸せに生きていけるようにと願いながら子どもたちと共に生きていくことは、皆様と共通の思いです。その為に指針があり、各園の保育方針、保育目標があり、保育課程から一人ひとりに応じた具体的なカリキュラムが立案され、“人として生きていくための土台となるこの時”、“一人ひとりを大切に”をキーワードに理想の保育が描かれていきます。その思いや願いが紙面の上に終わるのではなく、具体的に実現していくためには、どのように過ごしていけばよいのでしょうか。どのように「する」という表現ではなく、どのように「過ごす」と表現したのは、こちらが何か一方的にするのではなく、子どもたちと時を過ごす、同じ時を生きる中で実現されることだと思うからです。授乳の時、おむつ交換の時、一緒に遊びながら泣いたり笑ったりする時、それら日常の生活の一つひとつの小さな積み重ねが、理想に向かって歩む道となるのではないのでしょうか。その中で、自分自身がいつも心に留めている御言葉が二つあります。

ひとつは、『5わたしの名のためにこのような一人の子どもを受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。』6「しかし、わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、深い海に沈められる方がましである。」(マタイによる福音書 18:5~6)

厳しい条件の中、日々慌ただしく過ぎて行ってしまう現実があります。子どもたちの小さなサインを見逃していることが多々あるように思います。優しく丁寧な言葉をかけていても振り返れば指示命令の言葉になっているのではないかと、自己反省の日々です。

この世に生を受けて、頼りの綱、命の綱として生きてきた大好きなお母さんと離れて園にきた子どもたち。そのお母さんに代わる存在として、子どもたちが、いかに安心してすごせるかが私達に与えられた大きな使命です。“情緒の安定”をはかり、“信頼関係”を築き“自己肯定感”を育む。安定した日課の中で、生命を維持するために最も必要な育児(食事や排せつ)の部分に、いつも同じ人が関わってくれる。その安心感の中で特定の人との愛着関係が生まれます。子どもは身近にいる大人をモデルにしています。心遣いや表情、言動、立ち居振る舞いなどもそうです。家庭的で穏やかな環境の中で、子どもの思いをしっかりと受け止め、いつも笑顔で穏やかに、目と目を合わせて言葉を手渡し、肯定語で話すことを心掛けていきたいと思っています。

子ども自身が自分は自分のままでいいんだ、頑張っている時の自分ではなく、ありのままの自分を受け入れてもらえていると感じているかどうか。子ども主体の生活と遊びの中で自己表現できる環境づくりを目指して、一人ひとりの思いに共感し、自己肯定感を育んでいきたいと思います。

私たちは子どもを育てることはできません。子どもは神様に守られて自ら育っていくのです。その育ちを助け、育んでいくのが私たちの役割だと思っています。“育てる”というのはこちらが主体ですが、“育む”というのは子どもたちが主体です。“育む”の語源は“羽含む”親鳥が雛を羽で覆うように守っている姿を表しています。神様に抱かれて子どもたちと過ごすことを許されていることに感謝しつつ…

40…『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

(マタイによる福音書 25:40)

キーワード： 人権

園 名： 同胞保育園（京都地区） 保育士 小牧 志保

エピソード：

「子どもの気持ちを一番に考え、思いをくみ取り保育していく大切さ」

《 背 景 》

4歳児のAくん（男児）とクラスの違う4歳児のBちゃん（女児）が、朝の遊びから帰って足を洗っていた時にあった場面。Aくんは2歳の時に担任していたが、産休に入ったため、途中で担任を外れている。この日は乳幼児相談の日で、市との合同企画のため、保健師が3名来園していた。

《 エピソード 》

朝、私は子育て支援センターで乳幼児相談があるため支援センターに向かった。乳幼児相談日には、市から保健師の方が毎月来られている。センターへ行く途中には、園庭があり、園児が遊んでいるのが見えるので、そこを通る保健師の方たちは、近くで遊んでいる子どもたちに笑顔で挨拶をしてくださる。

この日も、いつもと同じように笑顔で通っていた。その時、足洗い場の順番を待っていたAくんが『だれー？この人らー！なんでこんな所にいるん？』と言葉を発した。少し乱暴な言い方をしたように私にはみえた。普段のAくんの姿や、2歳児で担任をしていた時の姿を思い出し、大人しいようにみえていたので、大きな声で言う姿を見てびっくりしたし、A君は日頃からあまり挨拶をしても返ってこない子なので、しっかり伝えないと、という気持ちも湧き"もー、そんな言い方して。ちゃんとしっかり挨拶してほしいのに。挨拶できない子やと思われるよ。ふざけているのかな"と思いながら、Aくん「なんでそんな言い方するの！おはようって挨拶してみた？」と聞いた。

私の問いかけにA君は首を振るだけだった。「A君、保育園にはたくさんの方が来られるから、挨拶はしっかりしてね」と少しきつく伝えてしまった。A君は何も言わずにただ頷いた。

私とA君のやりとりをみて聞いていたBちゃんは保健師の方に挨拶をしていた。Bちゃんは、「先生、Bな、ちゃんと言ったで！」というので、私は「偉いな、Bちゃん！言えてたな！また来はったら挨拶してな」とA君の前でBちゃんを褒めた。Bちゃんは私に褒められた事が嬉しかったのか、嬉しそうにクラスへ帰って行った。

一方、A君の方は納得していないような、私に言われたのもあり最初のような元気もなくなり、足洗いをしてクラスへと帰って行った。A君は落ち込んでいるようにも思えた。少しくつく言いすぎたかと思ったのだが、“伝えるべきことだ”と思ったので、私は支援センターに上がっていった。でも、このAくんの姿が私の脳裏から消えずにいた。

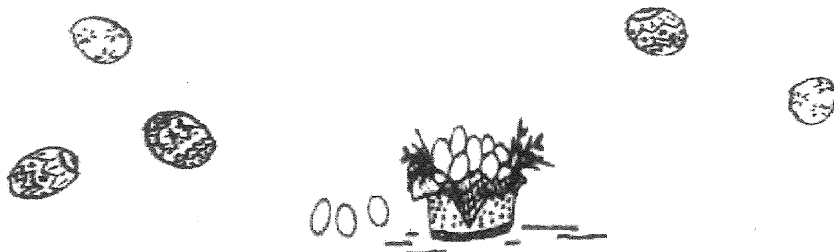
《 考 察 》

保健師の方が毎月1回来られていることを私たちはわかっているが、Aくんにとっては全く会ったことのない人かもしれないし、会ったことがあっても忘れているかもしれない。誰か解らなく不安に思ったことを正直に表現しただけだったのかもしれないと思う。また、Aくんにきつく言ったつもりはなかったが、私は子どものことより、保健師の方を優先的に気にしていたことに気づいた。“ちゃんと挨拶できる子ども”という私の理想の子ども像を求めたのだと思う。私の中で、Aくんの態度に対する困り感が怒りとなっていたのかもしれない。そのことをBちゃんは察して、私の期待に応えるような行動をとったのだと思う。Aくんにしてみれば、不安感を抱いていたかもしれないのに私にきつく怒られてしまい、自分の思いを言えなかったのではないかとも思う。また、一方的に伝えた後で、Aくんの前でBちゃんを褒めたのもAくんを嫌な気持ちにさせたのだと思う。それが、私の気がかりとなって脳裏から消えずにあり、エピソードとなって再現されたのだと気づいた。

A君の思いをくみ取り、“保健師の方だよ”と紹介するなどして、不安を取り除き楽しく話が出来るようにすればよかったのではないか。挨拶することも大切だが、子どもを一番に考えるなら、安心して話せる人や話せる環境を作ることの方が大切だと思った。

聖書：人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい

(ルカによる福音書6. 31)



「♪海や森、空も清めば、わが心はヤンバルの地に♪」パート3

沖縄県本部町 高 垣 喜 三

ハイサイ。しばらくぶりの沖縄からの便りになります。

この間も、日米両政府による理不尽な、そしてあからさまな沖縄いじめともいえる差別的政策が吹き荒れています。それはまさに県民の命さえも危機にさらされる事態が続いているのです。

懸念されていたことがついに発生

2016年12月13日、沖縄県民が繰り返し警告し、懸念してきた事態が起きました。

夜間訓練中のMV22オスプレイが名護市東部の安部（あぶ）地区の海岸に墜落し大破したのです。集落から数百メートルでの大事故でした。実はこの夜、別のオスプレイが普天間基地に胴体着陸するという事故も発生していたのです。

オスプレイはご存知のとおり飛行機のような固定翼とヘリコプターのような回転翼の機能を併せ持つ垂直離発着型大型輸送機で開発時から事故が多く、「空飛ぶ恥」とも言われ、

今日もアメリカ本国、ハワイでは強烈な下降熱排気流や騒音による希少生物や生活環境への影響が懸念されることから訓練を禁止しているエリアがあるのです。

一方、2012年10月、日米両政府は10万人の県民が参加したオスプレイの配備に反対する県民大会に示された民意を無視し普天間基地への12機の配備を強行し、また、2013年1月の41市町村長や議長、県議らが参加し安倍首相に提出した建白書をも無視し、追加配備や市街地上空での低空飛行訓練等を繰り返してきたのです。ハワイでは、コウモリや文化財への影響を考え中止したオスプレイの飛行訓練、沖縄では平気で夜間も含め市街地の上空を飛び回っているのです。こんなことが許せますか？

私たち県民は、沖縄に押し付けられる欠陥機オスプレイの訓練中止と配備撤回、まして、世界に希少な亜熱帯降雨林で希少生物の宝庫、県民の貴重な水がめであるヤンバルの森や、高江の住民の生活環境を破壊するオスプレイパッド(着陸帯)の建設に反対し、完成すれば100機のオスプレイを配備すると言う辺野古新基地建設を止めるために行動しています。

そんな中で発生した墜落事故

県外のみなさんはこの墜落事故、ほとんどは「不時着水」と知らされているのではないですか。そうです。一部を除いてほとんどのメディアは日米両政府の発表のまま何の検証もせず、海上に不時着したと報道しています。

しかし真実は？

米軍は今回の事故についても機体そのものに問題は無いと主張しています。しかし、この夜間空中給油訓練中の事故こそが、機体の構造的欠陥を浮き彫りにしたのです。

その後墜落した機体から流れ出し遠く離れた海岸に漂着し発見された米軍資料には「空中給油のホースや装備がオスプレイにぶつかることがあり得る」と機体構造の欠陥を認め、「プロペラにぶつかれば大惨事を起こしかねない」と墜落事故を予想する記述がありました。

しかし、米軍はこの墜落を「不時着水」と言い換え、在沖米軍トップのニコルソン4軍調整官に至っては「県民に犠牲を出さなかったパイロットに感謝しろ」とまで言い放ったのです。



私たちはこの暴言を決して許しません。重すぎる機体とオートローディングが効かない欠陥機であるが故にコントロール不能に陥り墜落した事実は隠せません。事故後次第に明らかになる原形をとどめないばらばらに破壊された事故機の惨状はそのことを物語っています。

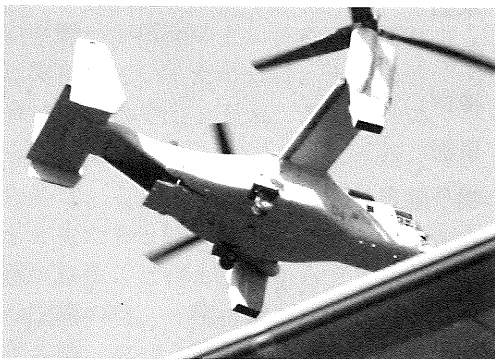
県民の命はそこまで軽いのでしょうか？

墜落したあくる日、高江での基地建設抗議行動の後、仲間と墜落現場での抗議行動に。そこではすでに米軍の指示によって警察機動隊が現場から遠く離れたところで阻止線を張り、マスコミも近寄せないのです。市域の安全に責任を持つ名護市長をもシャットアウト。沖縄県警は事故調査にも加われないのです。



また、3日後にも辺野古の新基地建設に反対する海上抗議船に乗り海上からすぐそこに横たわる無残な姿をあらわにした物体と化した事故機を見ました。ここでも、本来海上事故として捜査すべき海上保安庁の保安官たちが米軍から排除され、オイルフェンスと我々の間に入ってウロウロと、おまけに、現場のビデオじゃなくこちらにカメラをずっと向け撮影する始末。情けない、一体いつまでこんな関係を放置するのでしょうか。おかしいと思いませんか？

米軍はこの墜落事故の詳細な検証を抜きに1週間もたたないうちに訓練を全面再開し、日本政府も米軍の言うがままにそれを認めました。またもや県民の命と安全は二の次にされてしまったのです。こんなこと、アメリカ本国や日本本土ではあり得ないのではないのでしょうか。2015年には佐賀空港へのオスプレイの一時移転を政府は考えましたが、地元の反発で断念すると言う事もあったのです。それほどまでに沖縄県民の命は軽いのでしょうか。あからさまな差別だと思いませんか。



しかし沖縄でのこのような不条理を許しておけば、やがては日本本土にもその危険が拡大します。オスプレイは落ちるのです。もともと安全な乗り物として作られていないのです。沖縄に来ていただければわかります。市街地の真上をしかも低空で飛ぶオスプレイを目撃するでしょう。また1月20日には、米軍普天間基地所属のAH1攻撃ヘリコプターが、うるま市の伊計島の農道に不時着すると言う事故が発生しました。戦闘機の爆音は耐え難い苦しみを住民に与え、爆音訴訟では、司法はその騒音被害を認め賠償金の支払いを命じてもその原因である飛行の差し止めは認めないのです。米兵による犯罪は後を絶ちません。

多くの方々が癒しの島として沖縄にやってきます。しかし、沖縄の県民は癒されることなど決していないのです。

多くの方々が癒しの島として沖縄にやってきます。しかし、沖縄の県民は癒されることなど決していないのです。

私の好きな歌の一つに沖縄のシンガーソングライター安里正美さんの「とにかくここで」という歌があり、その一節に ♪ 癒しの島だと言いながら 多くの人が訪れるけれど 足早に通り過ぎていく 冬の風のように / 日本人でしょうか僕も 日本だと思いませんかここは ♪ とあります。京都から引っ越してきてわずか5,6年の私にこの詩に込められた想いを深く理解できるとは思いません。しかし、毎日毎日、辺野古、高江に基地建設に反対し声をあげるオジイ、オバア達と接する中で思いを共有できればと思っています。

今回は現実に起こったオスプレイの墜落事故を中心に書きましたが、高江、辺野古の現状についてもまたの機会に触れてみたいと思います。とにかくこれだけはお伝えします。高江の工事もまだまだ完成していませんし、辺野古の工事もまだまだ準備段階で埋め立てなど全くできない状況です。政府は本体工事着手を宣伝し県民のあきらめを誘おうとしていますが大団円は見当違いなのです。

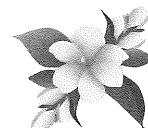
事務局だより



☆ 理事会報告

日本キリスト教保育所同盟理事会が2月13日（月）有馬温泉 兆楽においてもたれました。主な決議事項は以下の通りです。

- 1 活動方針を承認した。
- 2 役員事務局案を承認した。
- 3 本年度事業報告、各地区報告、国際交流事業、バングラデシュの保育を支える会 第20回の旅、保育研究会、第58回夏季保育大学、中間決算などの報告事項を承認した。
- 4 次年度事業計画、仮予算などを承認した。
- 5 第59回夏季保育大学計画を承認した。
- 6 第60回夏季保育大学は、沖縄地区が担当する。



☆ その他の報告

- 1 「融資金管理運営事業基金規則」及び「融資金運営基金運用要項」について審議した。次回の理事会で再度審議する。
- 2 キ保同の第三者評価の在り方について審議した。新しい可能性を探る方針を確認した。
- 3 以下の保育園の加入が承認された。
中瀬新生保育園 園長名 黒澤裕子（社会福祉法人 日本バプテスト連盟 大師新生教会）

☆ 今後の主な予定

- * 総 会 2017年5月8日（月）～9日（火）於. 京都
- * 理 事 会 2017年5月8日（月） 於. 京都
2018年2月13日（火）～14日（水）於. 神戸
- * 園長研修会 2017年5月9日（火） 於. 京都
2017年10月19日（木）～20日（金）於. 鳴子温泉
2018年2月14日（水） 於. 神戸
- * 新任研修会 2017年5月17日（水）～19日（金）於. 関西セミナーハウス
- * 中堅保育士研修会 2017年11月8日（水）～10日（金）於. 横浜
- * スキルアップ研修会 2018年1月23日（火）～24日（水）於. コミュニティ嵯峨野
- * 第59回夏季保育大学
日 時 2017年8月23日（水）～25日（金）
場 所 ハウステンボス ウィンズ佐世保
主 題 「光・いのち・輝き」
- * バングラデシュの保育を支える会 第21回の旅
日 時 2017年6月11日（日）～19日（月）
訪 問 WCBワールドコンサーンバングラデシュ

